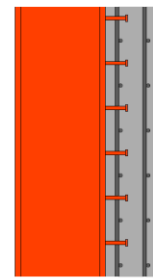
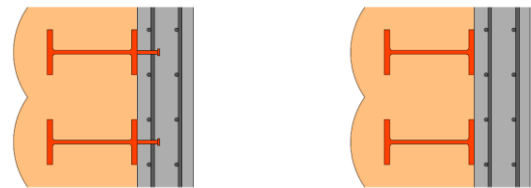


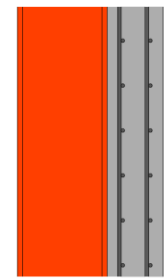
<p><b>【技術の名称】</b>                  KTW工法                  ー山留め壁H形鋼を本設利用した地下外壁ー</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第13-34号                  性能証明発効日：2014年4月4日</p> <p><b>【取得者】</b>                  鹿島建設株式会社</p>
--	--

**【技術の概要】**

本技術は、山留め壁H形鋼を本設地下外壁や引抜き抵抗要素として有効利用する技術であり、山留め壁H形鋼と地下RC壁には、一体化された合成壁と一体化しない複合壁がある。合成壁で一体化のために使用されるシアコネクタには、頭付きスタッドに加え、孔あき鋼板ジベルが使用できる点が特徴である。その他の特徴としては、地下外壁の設計応力の算出において、3つの計算方法を用意しており、施工過程や剛性変化等を適切に考慮できること、また、山留め壁H形鋼とソイルセメントの自重分を引抜き抵抗要素(カウンターウェイト)として見込むことができること(H形鋼を用いるソイルセメント壁で合成壁の場合のみ)があげられる。



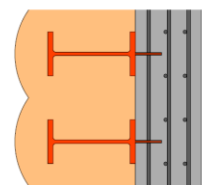
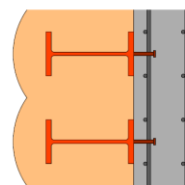
合成壁



複合壁

**【技術開発の趣旨】**

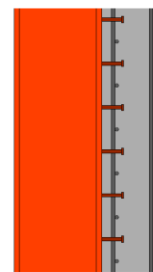
従来は仮設材として使用している山留め壁H形鋼を本設部材として有効利用し、地下RC壁とともに地下外壁を構成することにより、地下RC壁の負担を軽減し、省資源・省スペースを図ることを意図して開発されたものである。



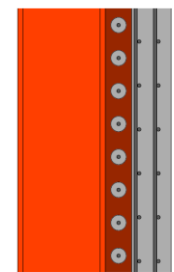
**【性能証明の内容】**

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「KTW工法 設計施工指針」に従い設計・施工された山留め壁H形鋼と地下RC壁からなる合成壁あるいは複合壁は、土水圧などの側圧荷重を受ける地下外壁として、同指針で規定する長期荷重時および施工荷重時の要求性能を満足するとともに、同指針で定める引抜き抵抗を有する。



頭付きスタッド



孔あき鋼板ジベル

**【本技術の問合せ先】**

鹿島建設株式会社 担当者：村松 匡太  
 〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

E-mail：muramatsu-masataka@kajima.com  
 TEL：03-6229-7287 FAX：03-5561-2327